

むきばんだの暮らし

～これは、むきばんだに人がたくさんいたころの暮らしを空想した物語です～



今年は
豊作だよ

豆や
野菜は
どうですか

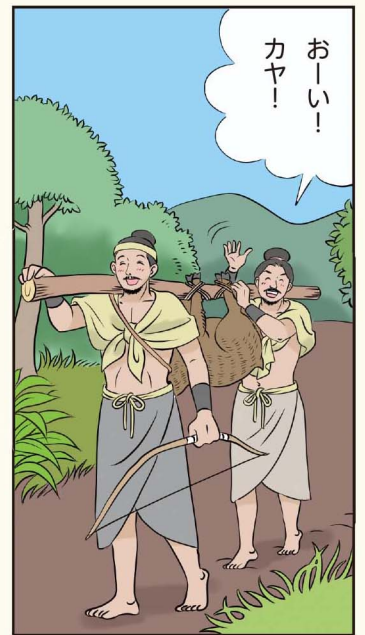
ここは約千八百年前の
むきばんだ村
今夜は収穫祭の準備で
大いそがしです



今日は
ウサギや
イノシシが
とれたぞ



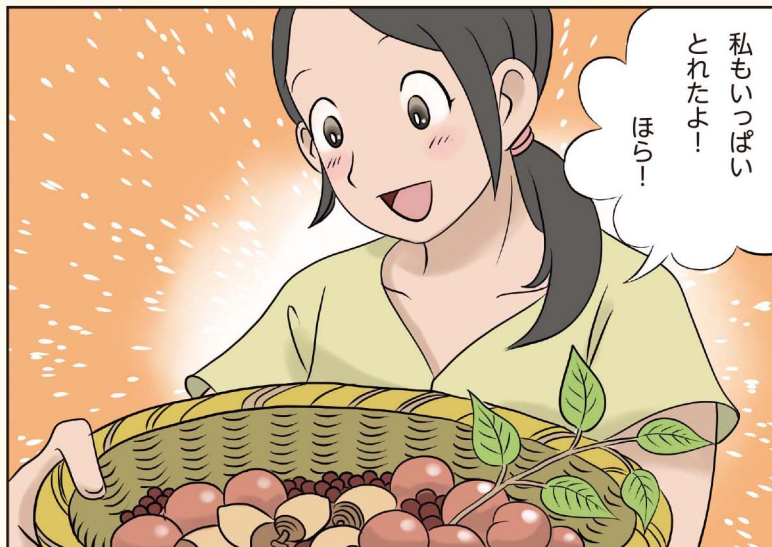
トトリおじさん！
狩りは
どうだった？



おーい！
カヤ！



おばは様も
きつと
喜ばれるわ
私伝えてくる！



私もいっぱい
とれたよ！
ほら！



ワナを
工夫したら
うまく
いってな！
さすがだね！

空から見た妻木晩田のムラ

※建物や人間などわかりやすくするために、実際よりも大きく描いてあります。

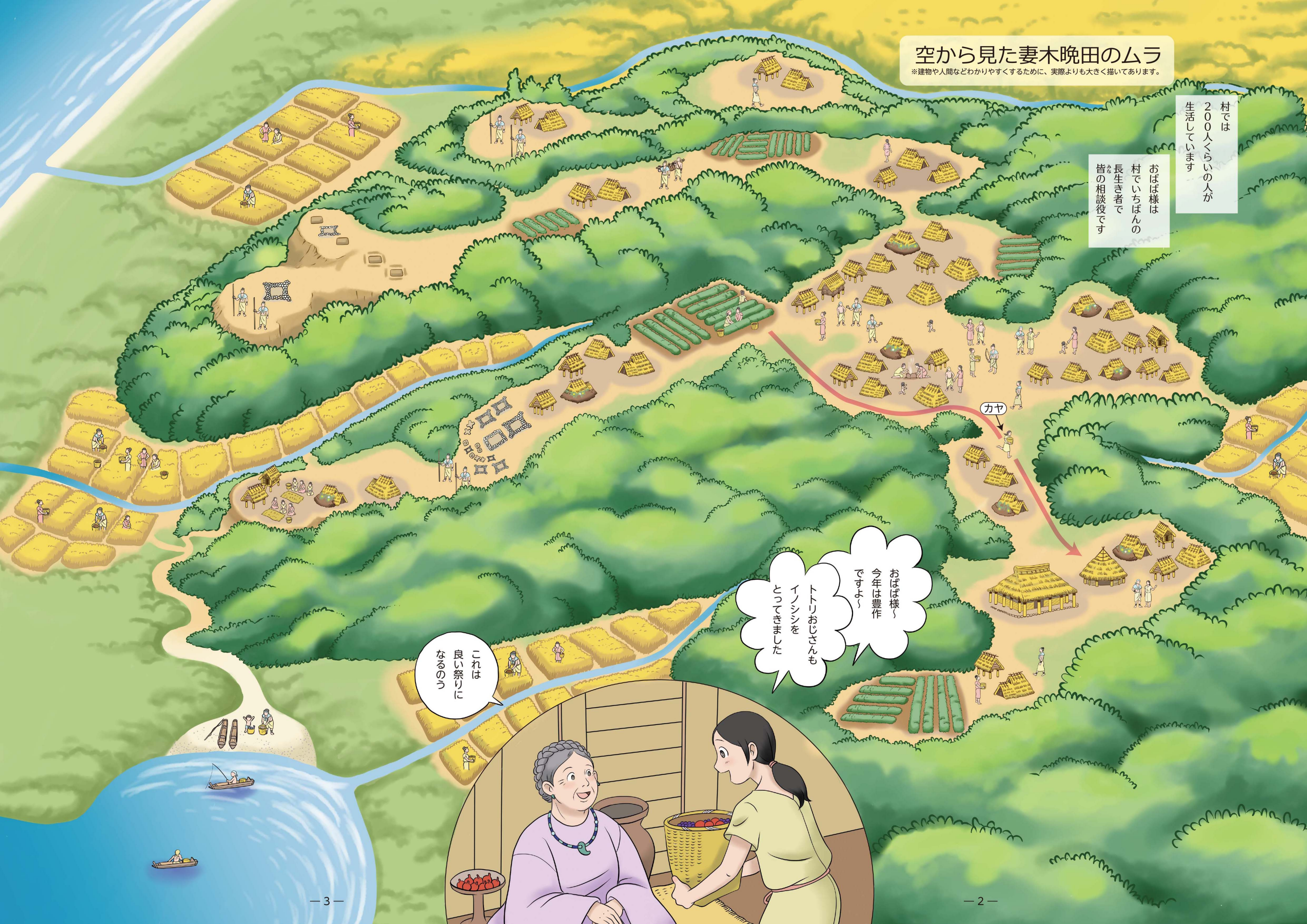
村では
200人くらいの人が
生活しています

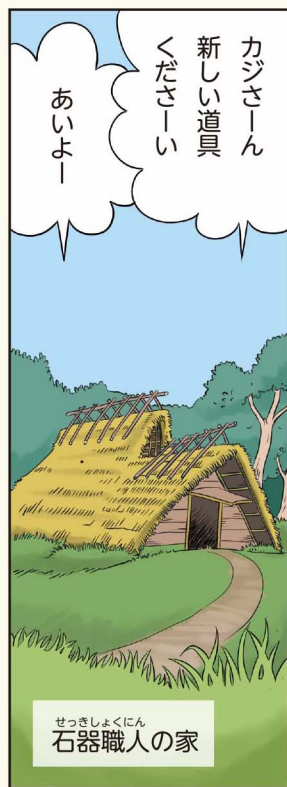
おば様は
村でいちばんの
長生き者で
皆の相談役です

おば様、
今年は豊作
ですよ

トトリおじさんも
イノシシを
とってぎました

これは
良い祭りに
なるのう







これは最新の鉄のオノだ

交易で手に入れた品々を披露しました



貝のスープも飲んでみて!

これはうまい!

儀式のあとは宴の時間です



西の方では争いが起きています。そこら先に行くと命が惜しければ行くなと言われた



トト西の方はどうだった?

より丈夫にできているぞうだ

作り方が違うな先のところは折り返してあるどうやってつくったんだ?



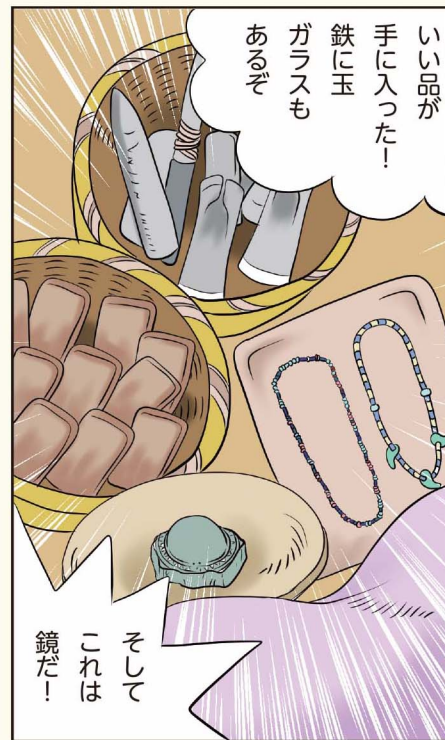
それでは鏡を手に入れたときの話しよう! これはな……

満天の星空の下宴は一晩中続きました



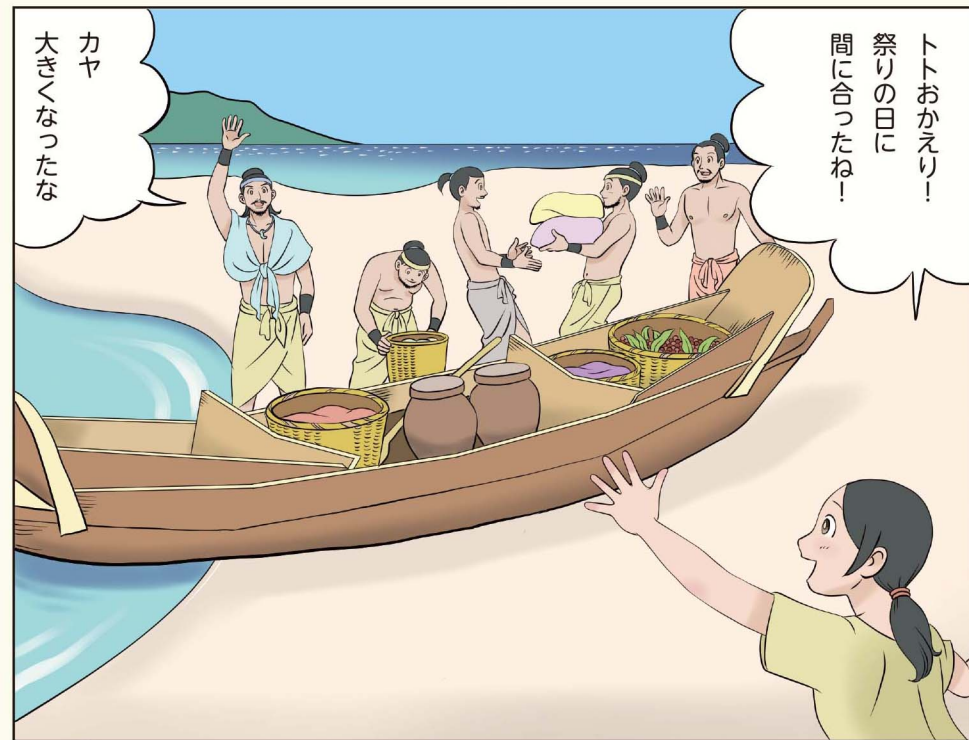
いつかこも巻き込まれるかもしれん

見張りの数を増やすか……



いい品が手に入った! 鉄に玉ガラスもあるぞ

そしてこれは鏡だ!



トトおかえり! 祭りの日に間に合ったね!

カヤ大きくなったな



はかもりけんみは 墓守兼見張り

いい匂いがしてきたうまく炊けたな船の積荷も気になる……



すいはんたんとう 炊飯担当

港に船が着いたって!

こつちもちよつごご飯が炊けたよ



収穫を祝う儀式は祭壇の前に収穫物をお供えしておぼ様が見守る中リーダーのクカ力様がお祈りします

今回は交易で得られた鉄器や地金 宝物の数々もいっしょにお供えしました



▲空から見た妻木晩田遺跡

広大な遺跡

妻木晩田遺跡は大山のふもとの丘に広がるおよそ170ヘクタールもあるとても広い遺跡です。ゴルフ場の開発計画にともなって発掘調査が行われ、900棟以上もの建物跡や30基以上の墓など数多くの発見がありました。遺跡の大切さが人々に知られ、保存運動が行われた結果、開発計画は中止され、今ではむきばんだ史跡公園として、だれもが見られるようになっています。

さか盛えたムラ

妻木晩田遺跡は約350年続いたムラの跡です。弥生時代の終わりごろ（約1800年前）には遺跡の北東部、妻木山地区に数多くの建物が建てられ、最盛期を迎えました。作中のカヤが住んでいるのもこの場所です。

妻木山地区弥生のムラ▶



空から見た妻木晩田のムラ（解説）

マンガ本編2〜3ページのイラストは、妻木晩田遺跡をモデルに描かれています。遺跡で発見された建物や墓の一部は復元され、むきばんだ史跡公園で見ることが出来ます。



▲仙谷2・3・5号墓（復元）

リーダーの墓

カヤたちが住んでいる場所から少し離れた仙谷地区の見晴らしのよい場所には、土を盛り上げて作った墓があります。ムラを治めたリーダーの墓と考えられています。



▲洞ノ原西側丘陵と美保湾

見晴らしの丘と天然の港

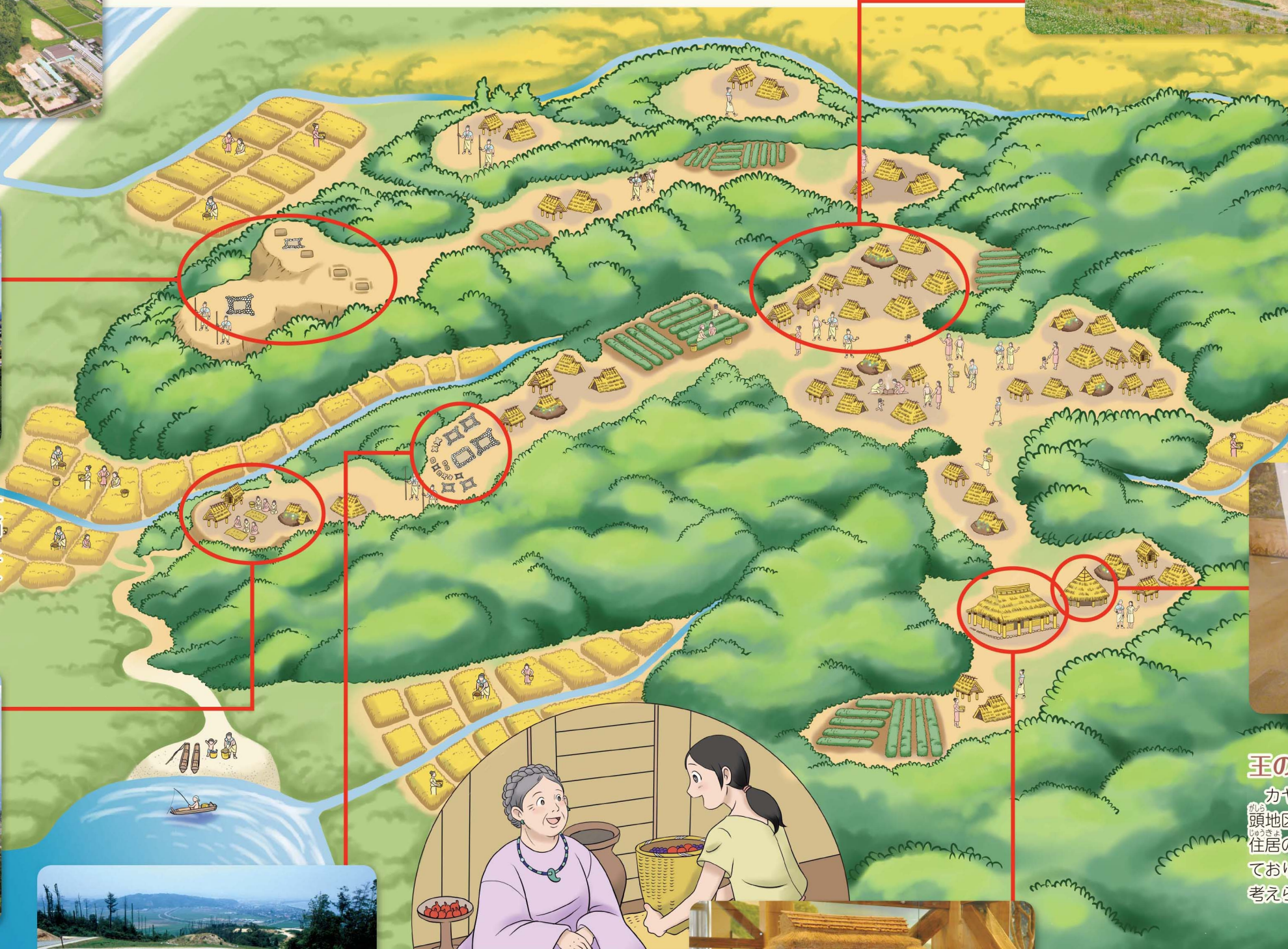
洞ノ原地区の西側にはとても見晴らしのよい場所があり、美保湾が見渡せます。カヤたちのいた時代には海は今よりも内陸に入り込んでおり、海とつながった湖（潟湖）もありました。潟湖は天然の港として使われ、交易の拠点となったと考えられています。



▲洞ノ原墳丘墓群（復元）

古いリーダーの墓

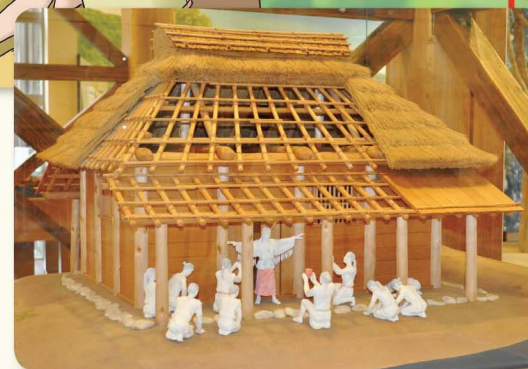
遺跡の中央部、洞ノ原地区にはカヤたちの時代から50〜100年前に作られた古い墓があります。何世代にもわたってお墓を作り、守り続けたのです。



▲松尾頭地区第45竪穴住居復元模型

玉の住まい

カヤたちが住んでいる場所の南側にある松尾頭地区からは直径が7〜8mもある大きな竪穴住居の跡が見つかりました。青銅の鏡も出土しており、妻木晩田のムラのリーダーの住まいと考えられています。



▲松尾頭地区第41建物復元模型

さいでん 祭殿

大型の竪穴住居跡の近くからはひさしのついた大きな建物の跡が発掘されました。祭りなどに使われた特別な建物と考えられています。

米作り



▲石包丁で稲の穂をつむ女性



▲石包丁



▲妻木晩田遺跡から出土した石包丁

弥生時代は米作りが始まった時代です。田んぼに稲を植えて育て、米が実ると石包丁で穂をつんで収穫しました。米作りによってまとまった量の食料がとれるようになったほか、田んぼを作ったり管理したりするなど、それまでの縄文時代と比べて大きな変化がありました。

弥生土器



▲食事を盛り付けた土器



▲米を炊く土器「甗」



▲妻木晩田遺跡から出土した土器

弥生時代には弥生土器と呼ばれる土器が使われました。縄文土器と比べてうすく、かたいのが特徴です。甗という土器で炊き、高坏という土器に食事を盛り付けました。土器は遺跡からたくさん出土し、多くのことを現代に教えてくれます。

建物



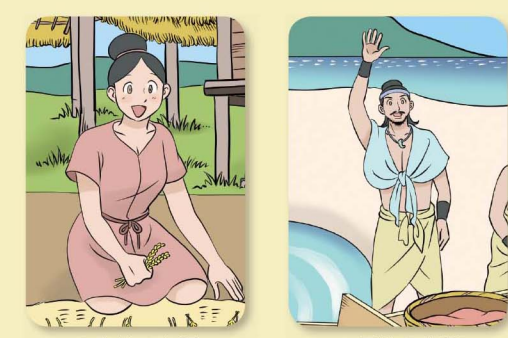
▲高床倉庫(上)と竪穴住居(右)



▲むぎばんだ史跡公園の復元建物

弥生時代の人々は地面を掘った穴の上に屋根をかけた竪穴住居に住んでいました。食べものなどは動物や湿気から守るために高床倉庫に蓄えました。むぎばんだ史跡公園には、当時の建物が復元されています。

衣服



▲女性の衣服

▲男性の衣服



▲司祭者の衣装

弥生時代の人々は、女性は貫頭衣と呼ばれるワンピースを、男性は腰巻に横幅衣と呼ばれる肩掛けを着ていたと考えられています。リーダーなどは特別な衣装やアクセサリーを身に付けていたことでしょう。

リーダー



▲リーダーたちが葬られた墳丘墓

▲祭りをを行うリーダー



▲妻木晩田遺跡洞ノ原墳丘墓群(復元)

弥生時代には人々を指導するリーダーが現れました。田んぼや建物を作る時の指導者として、また祭りや占いをを行う司祭者として人々を従えました。リーダーたちは死後、「墳丘墓」と呼ばれる大きな墓に葬られる特別な存在でした。

交易



▲交易品を積んだ船

▲交易品の数々



▲貴重だったガラスや青銅の鏡

自分たちの土地でとれないもの、作る技術がないものは交易で手に入れる必要がありました。人々は船などを使って大陸から伝わってきた、貴重な鉄やガラス素材、管玉などのアクセサリー、青銅の鏡などを手に入れたのです。

金属の道具



▲交易で手に入れた鉄の斧



▲妻木晩田遺跡から出土した鉄器

弥生時代には米作りとともに金属の道具が伝わった時代でもありました。青銅器は祭りの道具や武器に、鉄器は武器や工具に使われました。青銅や鉄自体は当時の日本では作る事ができず、大変貴重なものでした。むぎばんだのムラの中では、鉄の道具を加工作した跡が見つっています。

争い



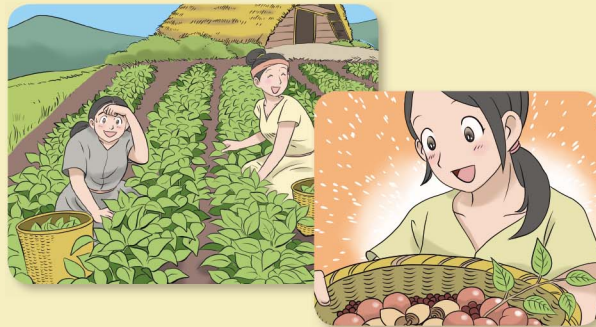
▲やじりがささった骨(鳥取市青谷上寺地遺跡)

▲争いのうわさ(妻木晩田遺跡では直接的な争いのあとは見つかっていません)

弥生時代は土地や水などをめぐって大きな争いがおきた時代でもありました。武器などによって傷つけられた人の骨の出土が増えるのも、この時代の特徴です。



▲狩りや漁をして肉や魚もたべていました。



▲弥生時代の人々は米作りだけでなく畑で作物を作ったり、木の実をとったりしていました



▲妻木晩田遺跡から出土した漁に使った網のおもり(石錘)と狩りに使った石のやじり(石鏃)



▲妻木晩田遺跡から出土したマメ(左上)と木の実をすりつぶすための石器(敲石・磨石)



▲青谷上寺地遺跡から出土した貝をとるヘラ(アワビオコシ)と釣り針



弥生時代は米作りが始まりました。米以外の様々な物も食べていました。畑でマメや雑穀などの作物を作ったり、木の実や山菜、果物などをとったりしていました。海や川・池では魚や貝をとって、弓矢を使って狩りをしていました。



妻木晩田遺跡

妻木晩田遺跡は国内最大級の弥生時代の村の跡です。広大な面積が発掘された。当時の生活の様子がよくわかる貴重な遺跡です。現在は「むきばんだ史跡公園」として、誰もが見学できるように整備されています。



鳥取県立むきばんだ史跡公園

〒689-3324 鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4
 電話 0859-37-4000 ファクシミリ 0859-37-4001
 E-mail: mukibanda@pref.tottori.lg.jp
 H P: https://www.pref.tottori.lg.jp/mukibanda
 facebook: https://www.facebook.com/Mukibanda
 Youtube: https://www.youtube.com/c/mukibanda-shieki



開園時間 ▶ 9:00~17:00 (入園は16:30まで)
 休園日 ▶ 毎月第4月曜日(その日が祝日の場合はその直後の休日でない日)
 年末年始(12月29日~1月3日)



漫画監修: 深澤芳樹氏

令和4年3月発行